

上海崇明島における日中合作環境教育プロジェクト

第3回「自然がっこう」実施報告書

2014年6月10日
一般社団法人ときの羽根

【はじめに】

第3回「自然がっこう」は、2014年5月28日(水)に「グリーンマップって何？」を主題に崇明島の裕安小学校において、崇明島の小学校教師など150名を対象に開催した。講師はグリーンマップを通して環境に配慮した地域社会づくりを主な活動とする地域の未来・志援センターの萩原喜之理事長の指導の下に実施した。

上海崇明島における日中合作環境教育プロジェクト「自然がっこう」は、カウンターパートナーである上海市崇明県生態科学技術普及協会と結んだ合作プロジェクト契約の最終年度であることから、持続可能な環境保全活動に向けた仕組み作りに重点をおいた講義を行った。

今回の会場となった裕安小学校をモデル校に、崇明島の全35校の小学校に小学生を主体にしたグリーンマップづくりを拡大していく道筋をつけることを主眼に置いた。

【主催】

一般社団法人 ときの羽根
上海市崇明県生態科学技術普及協会

【後援】

上海科学技術交流中心
上海市科学技術委員会
上海市崇明県教育局

【協力】

トヨタ環境活動助成プログラム2012
公益信託経団連自然保護基金



開校の挨拶をする上海市崇明県生態科学技術普及協会
顧志平副会長

[開催概要]

実施日 2014年5月28日(水)

会場 上海市崇明県裕安小学校

講師 地域の未来・支援センター 萩原喜之理事長

受講者 崇明県の小学校を中心に中学校の教師、崇明県科技普及協会会員、上海市農業科学院園芸研究所研究員
同済大学NPO緑色之路の大学生ら150名

内容 8:45～9:00 開校式(主催者挨拶、来賓祝辞、祝辞披露)
9:00～10:30 講義「グリーンマップって？」
10:30～10:45 休憩
10:45～11:10 DVD「GOグリーンマップ」
11:10～12:00 講義「グリーンマップの目的は？」
12:00～13:00 昼食
13:00～14:45 質疑応答&ディスカッション
・午前講義の質疑&感想
・グリーンマップの目的について？
・崇明島をどのような島にしたい？
・エコアイランド崇明島とは何？
14:45～15:00 講評&閉校式



裕安小学校会場。主催者挨拶をする久田代表理事。
通訳は四川省国際科学技術合作協会の会長で一般社団法人ときの羽根顧問の梁晋氏

講師

萩原喜之 (Hagiwara Yoshiyuki)

1953年出生

绿色地图·爱知 地图授权管理者

特定非盈利活动法人 地域未来·志援中心理事长

特定非盈利活动法人 环保设计市民社会研讨议会 理事长

特定非盈利活动法人 中部再生循环运动的市民会(组织) 顾问

1980年 27岁, 辞去工薪职员的工作, 以开展‘有生存能力的市民运动’为目标设立了[中部(地区)再生循环运动的市民会]。在当时国语辞典里还没有‘再生循环’这个单词, 政府机构也没有这个认识的时代, 构筑了名古屋市的再生循环运动的体系。

2005年爱知世博会期间, 担任日本国际世博会协会委员, 致力于‘世博环保货币’活动。同时, 作为爱知县县民参与运动的领军人物, 导入了绿色地图, 使市民拥有了参与的工具而最终获得了市民参与型世博会的成功。

现在, 以建立‘持续可能的社会’为目标, 作为NPO、企业、政府部门之间的援助组织, 正致力于加深地域市民之间的信赖关系由此促进新型地域建设的事业。



講師：地域の未来・志援センターの萩原喜之理事長

主催者挨拶

一般社団法人ときの羽根 代表理事 久田治子

みなさん、こんにちは。
今、ご紹介いただきました、ときの羽根の久田治子です。
本日は、こんなにも大勢の方に「第3回自然がっこう」にご参加頂き、愛知県から参りました日本団を代表して感謝申し上げ、同時に崇明島での「日中合作自然がっこう」開催にあたり、主催者の崇明県生態科学普及協会のパートナーとして開校式のご挨拶をさせていただきます。

私が初めて崇明島を訪問したのは2009年12月の寒い冬でした。上海社会科学院の研究員の案内で愛知県環境部長、名古屋大学の教授3名ほか約10名の訪問団の事務局長として崇明島を訪問し、東灘湿地帯を視察したのがきっかけでした。揚子江の大きさと湿地帯の広さに圧倒され、日本の渡り鳥の飛来地でもある自然豊かな崇明島の生態系保全は中国だけの課題ではないと気づきました。日本は経済大国として目覚ましい発展を遂げた反面、自然を破壊し、公害問題、ごみ問題と闘ってきた反省を踏まえ、「崇明生態島建設」に協力することが、海の繋がった隣国として友好の証であると考えました。

半年後の2010年7月に上海万博の国連パビリオンで開催された「崇明生態国際フォーラム」に日本代表団事務局長として出席しました。元愛知県副知事、COP10国際自治体会議事務局長、名古屋大学教授ら十数名が参加し、崇明島に会場を移して開かれた最終日の閉会式で、崇明県科学技術委員会主任の顧松欄女史と「自然がっこう」合作の調印を交しました。

半年後の2010年秋には愛知県名古屋で開催されたCOP10(生物多様性条約締約国会議)に上海市科学技術委員会国際合作所の時副主任を団長に崇明県生態科学普及協会の顧事務局長や同済大学の李教授ら上海市政府代表団9名が来日されて再会し、2011年6月頃に「第1回自然がっこう」を開催する約束をしました。しかし、2011年3月に日本は東日本大震災に見舞われて第1回開催は延期となりました。

2011年以降、日中間において自然災害だけでなく様々な政治的試練が続き、開催が危ぶまれましたが、両国関係者の熱意と努力により2012年2月「第1回自然がっこう」開催にこぎ着け、翌2013年11月に「第2回自然がっこう」実施することができました。2014年の3月には、初めて「自然がっこう」関係者を日本に招聘し、環境と生態農業をテーマとする視察とシンポジウムを実施しました。「崇明島」の魅力についても日本の皆さんにPRする機会になりました。

この上海市代表団の団長は同済大学の李先生、副団長は上海市農業科学院園芸研究所の朱主任と裕安小学校の顧先生で、崇明島の高校2年生の石さんも参加下さり、皆さんとの友情が深まりました。

以上、2010年7月の調印から4年の歳月が流れましたが、崇明島も20回程訪問を重ね、様々な困難を乗り越えて本日「第3回自然がっこう」を崇明島の裕安小学校で大勢の教育関係の方々をお招きして開催できますことを心から感謝を申し上げます。

本日の講師、萩原善之先生には、グリーンマップについて講義頂きます。環境問題を市民活動の目線にとらえ、地域の住民の幸福を先ず念頭に置いた持続可能な社会システムを市民自らの動機を導き出して課題解決にあたる日本を代表する指導者のひとりです。

萩原先生の講義をヒントに先ずモデル校として裕安小学校で実践します。新しい試みとして同済大学のNPOの学生たちの協力を得て崇明島独自のグリーンマップを作成し、その成果をもとに崇明島の35の小学校単位でその地区のマップを作成し、最終的にひとつ崇明島全体のマップを創り上げるのが目標です。

この「自然がっこう」のグリーンマップ活動目標は、崇明島での経験をベースに、中国が直面している環境問題を小学生、大学生の視点による問題提起として、揚子江流域の生物多様性保全への意識へと拡大させることです。

上海市は13億国民を抱える中国の最大の国際都市で、崇明生態島建設は、中国の未来を担う象徴的な役割を担っています。その崇明島は揚子江上流から流れる「水」全ての影響を直接受ける最下流域に位置し、崇明島が独自の努力で理想の生態環境を保持しても上流からの影響を避けることはできません。そこで、小学校単位で作成したグリーンマップの成果事例をもとに上流域の小学校と連携し、上流域のグリーンマップ・モデル小学校の代表者が崇明島に集結して「生き物サミット」を開催します。揚子江の各地域の環境課題を小学生が郷土の現状として発表し、参加者全員が問題点を共有する。

つまり揚子江全域の小学校が協力して解決していく「環境サミット」です。大学生が小学生のプレゼンを協力することも望ましい形態です。大人たちが数値基準を立てて規制する方法とは異なる青少年の提案です。グリーンマップで表現された問題提起は視覚的に判りやすく、中国沿岸部と内陸部を繋ぐツールとなります。このように日中合作「自然がっこう」プロジェクトを崇明島発の独自の環境改善活動に拡大発展させていく夢を描いています。

講師の萩原先生はJICAの仕事でネパールでの指導経験がおありです。本日の講義が崇明生態島建設の一助となりますよう、皆さまのご理解と実践行動にご期待します。

さて、ここでご紹介したい方がいます。今回、私の通訳をして下さっております梁晋会長は、四川省国際科学技術合作協会会長で、当プロジェクト顧問として揚子江流域の生物多様性保全構想の協力者です。梁晋会長は、元中国駐名古屋総領事館の領事でこのプロジェクトの生みの親です。成都から参加下さり、揚子江上流域のまとめ役としてアドバイスを頂きますので、ご紹介させて頂きました。

最後にご支援者の皆様への感謝の言葉を申し上げます。一区切りとしての「第3回目自然がっこう」開催日を迎えられましたこと、助成先のトヨタ自動車、経団連自然保護基金、三菱UFJ国際財団に主催者を代表して御礼申し上げ、続きまして主催パートナーの崇明県生態科学普及協会の宋会長、顧事務局長、窓口の上海対外科学技術交流中心の皆様、上海市農業科学院園芸研究所の朱主任と陸助理、同経済大学の李教授と同済大学緑色之道協会の学生たち、そして本日の小学校を会場提供してご協力下さった顧校長、その他多くの支援者の皆様にご支援を賜り、心から感謝申し上げます。この日中合作環境活動が両国の青少年に継承されて発展していくことを願って私のご挨拶とさせていただきます。

主催者挨拶

崇明県生態科学普及協会副会長 劉偉超氏

尊敬する久田治子様、梁晋様、陶永輝様及び今回の活動をご参加いただいた中日両側の皆様、お早うございます。まず、崇明県生態科学普及協会を代表して、日本のお客様及び専門家が崇明島にいられて、グリーンマップの教育プログラムにご参加いただき、心より感謝を申し上げます。

自然規律と生命を尊重し、自然環境を守るのは、世界共同の話題であり、環境保護、社会、経済、文化を持続発展させるのは、国民のやるべき義務であります。いかに環境保護活動を有効的に促進し、どのようなやり方と経験が共有できるかは検討すべき課題であります。

本日、中日自然学校は第三回の教育プログラムを行い、テーマは「グリーンマップの作成」です。このテーマに対し、みんな興味があると思っています。崇明島は優れた環境教育の資源に恵まれ、どのようにこれらの環境教育の資源を相互結びつけ合い、生徒及び島民の教育に対して相乗効果を生じるかを期待しており、グリーンマップの作成はこの目標を実現させるための基礎を固めました。今回の教育プログラムを通して、グリーンマップの作成目的と作成方法をはっきり理解させ、良いグリーンマップの評価基準を明確させることができると思います。

自然学校は人と人、人と自然、人と社会を繋ぐ社会的な組織と場所であり、自然体験は主な方法として、環境教育を行います。本日の教育プログラムは、グリーンマップの作成や自然環境への体験の方法を通して、必ず環境教育の素晴らしさを理解させることができると思い、その効果に期待しています。

再び日本の専門家、お客様、上海対外科学技術交流センターの皆様、崇明教育部門の先生と学生達、今回教育活動の場所を提供してくれた裕安小学校、ならびに今回の活動のために苦勞を出されたご在席の皆様にご感謝を申し上げます。更に、日本トヨタ様、崇明県科学協会、崇明県教育局が今回の活動を支援されたことに感謝を申し上げます。

最後に、今回の教育活動の円満成功をお祈り致します。ありがとうございました。



崇明県生態科学普及協会副会長 劉偉超氏

来賓挨拶

上海対外科学技術交流中心 副主任 陶 永輝氏

ご在席の皆さま、お早うございます。

初夏の候、昨年11月に開催された「第二回 自然がっこう」の成功裡に開催されたことを受け、本日、「第三回 自然がっこう」の開校を迎えることができましたことは中日双方関係者の幾多のやり取りと努力による賜物です。ここに本プロジェクトの連絡調整役を担当させて頂く上海対外科学技術交流中心を代表しまして、プロジェクトの推進に当たり、プロジェクト応募や金策に奔走されてきた「一般法人ときの羽根」代表理事久田さま、理事足立さま、並びに本プロジェクトに対し、ご理解とご協力を頂いた日本側の友人の皆様、また今回の講師として迎えられた地域の未来支援センター理事長萩原さまに敬意を表したいと思います。また、今回、四川省科学技術合作協会梁晋会長は一般法人ときの羽根の顧問として迎えられることは嬉しく思い、梁会長はかつて在名古屋中国総領事館科学技術領事として勤務中、当プロジェクトに対し多大なご指導とご協力を賜り、改めて敬意を表したいと思います。同済大学や上海市農業科学院園芸研究所からの皆様のご参加が大きな力となりました。さらに、今回の準備作業に当たり、多大なご尽力を頂いた崇明県科学技術協会、崇明県教育委員会及び崇明県生態科学技術普及協会の方々にも感謝申し上げます。

中国は改革開放政策が実施されてから30年余を経過しており、総合的な国力が大いに向上され、国民の生活水準も年毎に改善されてきましたが、生態系や環境保全といった持続可能な発展状況は未だに依然として厳しい道のりです。環境保全に対する社会全体の認識や関連技術の研究開発は焦眉の課題となります。この面において日本は成功事例や経験も多数ありますので、我々は学ぶべきところが多々あると思います。私たち人類は一つの地球村にしか住むことが出来ないので、グローバルビューで生態系保全や持続可能な発展といった共通課題に直視しなければなりません。

「第三回 自然がっこう」のテーマはグリーンマップの製作です。グリーンマップの理念の共有、テーマ別の作成方法などを通じて、当地域における独特の風俗人情や経済、文化ひいては観光資源の発見にも繋がります。また崇明島の更なる対外開放や知名度アップにも寄与できると考えております。

三年、三回にもわたる「自然がっこう」は成功に開校されましたことにより、環境や生態系維持に対する学生さん、学生のご両親、学校の先生、一般島民の方々の意識向上にも必ずや役立つと思いますし、中日両国における民間ベースでの友好交流にも大いに期待されます。ここに、これを新たなスタート台にし、ウインウイン関係で協力分野や内容を充実させ、モデル効果を十分発揮されることを切に願っております。

ここに、持続可能な発展とグローバル視野に立ったトヨタ自動車、経団連自然保護基金及び三菱UFJ国際財団等関係団体に対し、「崇明自然学校」プロジェクトへのご支援を感謝申し上げます。

最後になりましたが、今回の開校のご成功を祝福し、私の挨拶とさせていただきます。

上海対外科学技術交流中心 副主任 陶 永輝氏



講評および閉校挨拶

上海市崇明県生態科学普及協会会長 宋林飛氏

萩原先生の理念たっぷり且つ友好的な学術講座をいただいたことによって、われわれはグリーンマップの概念への理解を深め、アイコン編集の標準技術が分かるようになり、感謝を申し上げます。午前と午後の交流によって、グリーン環境と生態島の建設を繋ぐことができ、生態島の建設にプラス効果を与え、再び崇明側を代表して、萩原先生の知恵絞りと熱情溢れた講座に感謝を申し上げます。また、梁晋先生の通訳にもお礼を申し上げます。

グリーンマップについて

- ・グリーンマップに対する理解を深めました。マップを描く前提は調査であり、身の回りのグリーン状況に対して調査を行い、注意を払うようになりました。
- ・グリーンマップは一つの手段に過ぎません。生徒と教師にグリーン世界を理解させるキャリアーであり、身の回りの観察と調査を経て、社会と世界の観察習慣を育成させます。これは一種の能力と感情なので、グリーンマップを描くことは、非常にいい郷土教育方法でもあります。
- ・崇明グリーンマップはまだ作成していませんが、作成を完成すると、必ず魅力のある生態環境が現れるに違いありません。規格的なアイコンで描いて、世界に崇明島を理解させるように努めます。
- ・生態島建設のコアとポイントは生態意識を持つ人の育成、自然を守る生活習慣を身に付けるということです。グリーンマップを描くことによって、自分の不足に気づき、自分のレベルと能力を高め、崇明島民に更に崇明の生態文化を理解させます。

グリーンマップは一つの世界語

生態島の建設は国際的な視野だけでなく、手段も必要になり、上述の認識に基づいて、このプロジェクトをより良く完成しようと決意です。

中日自然学校は3年間を経て、非常に価値のある学校であり、民間の交流を促進し、日本からのお客様と崇明の島民のお互いの理解を深めました。知恵、知識を収穫し、友誼と感情を獲得しました。中日自然学校はますます成熟し、再び日本お客様の教育活動を感謝し、上海対外科学技術交流センター、上海農業科学院と同済大学、ご参加の皆様に感謝を申し上げます。



崇明県生態科学普及協会会長 宋林飛氏

講義の様子



グリーンマップアイコンがプリントされた風船を使った講義



熱心に講義メモをとる受講生



崇明県生態科学普及協会副会長 劉偉超氏からも質問が出るなど活発な質疑応答。関心の高さが伺える。





チャイナドレスの受講生



午後のディスカッションでは活発な質問や議論がなされる



地元崇明テレビの取材を受ける久田代表理事



裕安小学校の食堂で受講生を食卓を囲む



裕安小学校校門。



裕安小学校の校舎



校庭の生態農園。児童たちが有機栽培を実体験。



裕安小学校の顧錫家校長と久田代表



後列右より、崇明県生態科普協会副会長顧志平氏、四川省国際科学技術合作協会梁晋会長、足立、久田、崇明県生態科普協会宋林飛会長、地域の未来・志援センター萩原喜之理事長、上海对外科学技术交流中心陶永輝副主任、荒深久明臣氏、上海对外科学技术交流中心单霖霖氏、前列、同済大学NPO綠色之路の学生